

令和5年度 学年経営の基本的な考え方

揖島第二小学校 校長 小瀬 和彦

I 問題の所在

これからの社会は、Society 5.0を迎え、I to T(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、人口知能(AI)の飛躍的な進化とともに、将来の変化を予測することが困難な時代に直面する。

また世界では、温暖化、飢餓、紛争、格差、感染症といった国境を超えた課題が山積している。

このような社会的背景を踏まえると、これからの学校教育には、「日本人としてのアイデンティティをもちながら、異なる言語・文化・価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力、課題に対し協働して問題解決を図っていく能力、共によりよく生きようとし、社会貢献などの意識をもった人間」の育成が求められる。

揖島第二小学校では、上記のような社会的背景及び児童・地域の実態を踏まえ、下記の点から、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、教育目標の実現を図り、児童に生きる力を育んでいく。

記

II 目的

本校では、昭島市に愛着をもち、かかわることを通して、「自らの人生を自らの力で切り拓き、持続可能な社会の創造を担う人間の育成～グローバルに考え、ローカルに実践する～」を目指す。

学習指導要領の趣旨・内容の徹底を図り、全教職員の力を結集し、「ザ・チーム揖二小：『学校は失敗するところ』、『教室は間違えるところ』、『授業は子供が主人公』、『誰一人取り残さない』」で教育活動の充実を図り、保護者・地域・市民の信頼に応える学校創りを推進する。

III 目標

社会に開かれた教育課程の基、カリキュラム・マネジメントを発揮し、チーム学校（「子供の成長を教育活動のど真ん中におく！」）としての学校力を発揮し、教育目標を達成する。

◎ よく考える子（知）

自ら学び考え・判断し、協働して問題解決を図る子を育てる。

○ 心ゆたかな子（情）

自分のよさを見つめ、他者を尊重し、共によりよく生きる子を育てる。

○ 元気な子（意・体）

自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げる子を育てる。

自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる子を育てる。

IV 学校像

「『子供の成長』を教育活動のど真ん中におき、チーム一体となり、未来志向の学校を創造していく！」

- 1 児童に、確かな学力と自己実現に向かう力を育てる学校
- 2 児童の主体性を育み、自律・自立の精神を養う学校
- 3 教職員が組織一丸となって教育活動を創り上げる学校（チーム拝二小）
- 4 一人一人が大切にされ、安全で安心な生活を保障する学校
- 5 保護者及び地域から信頼され、地域と共に歩む学校

V 学年経営のアプローチ（目的・目標を達成するためのアプローチ）

～教育目標を達成するために～学校経営に学年チームとして参画する！

- 1 「I」～「IV」を踏まえ、学年として「大切にしたいこと！」「目指す児童像」「目標・ねらい」を明確に立て、共通理解・実践を図る。
- 2 学年主任は、リーダーシップを発揮し、意図的・計画的にチームとして学年会を設定し、協議・学び合い・協働解決の場とする。
 - 児童の成長に関すること（学習指導・生き方指導を学年で共通実践する。）
 - 創造的授業（主体的・対話的で深い学び）に関すること
 - 学校経営・学年経営・学級経営に関すること
- 3 管理職・学年メンバー・専科等との相互の「報告」、「連絡」、「相談」の徹底を図る。
- 4 授業は、伝統的な知識注入型授業から脱却し、各教科等の単元導入前に、学年会で基本的な指導内容及び指導方法の共通理解を図り、「拝二小授業力スタンダード20」に基づき、主体的・対話的で深い学びを展開する。
- 5 概念的知識と、思考力・判断力・表現力等を図る自力問題を専科で作成し、管理職の指導を受ける。
- 6 朝学習は、「10 チャレ」、「読み解く力」、「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から学年で計画立案し、共通実践を図る。
- 7 各教科等の指導計画について、カリキュラム・マネジメント（指導計画のPDCAサイクル化）を行い、ゼロスタートでなく、指導書に準じて実施する。（改善した場合、単元後、朱書きで修正する）
- 8 学級経営は「拝二小 学級力スタンダード」を活用して、子供自身が主体的に、セルフモニタリング及びセルフトレーニングができるようにする。学級経営が不安定な場合は、迅速に学年主任・管理職に相談し解決を図る。
- 9 教室環境等は、清潔に保ち、ユニバーサルデザイン（障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう教室等の環境をデザインする考え方）にする。